

2008年6月1日

高木仁三郎市民科学基金 助成選考委員の公募について

高木仁三郎市民科学基金
代表理事 河合 弘之
代表理事 飯田 哲也

高木基金の活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。高木基金では、下記の通り、助成選考委員の一般公募を行いますので、お知らせいたします。

高木基金は、一般のみなさまからの会費・寄付を財源とし、「市民科学」をめざす個人やグループの調査研究活動および、「市民科学者」をめざす人の研修に対する助成を行っています。助成選考にあたっては、最終選考の際に、公開プレゼンテーション（一般公開での研究計画発表会）を行い、市民の意見を取り入れ、また、助成研究の成果についても、積極的に市民社会に還元し、市民の評価にゆだねることを重視しています。

助成選考のために選考委員会を設置しておりますが、従来、選考委員の選任に当たっては、理事会が市民科学に造詣の深い方へ就任を依頼するかたちを取ってきました。昨年からは、選考委員に一般公募枠を設け、市民の立場で様々な問題に関わってこられた方などに、そのご経験に基づくご意見をいただくことで、市民科学にふさわしい助成選考にしていくことを目指しています。

今回募集する公募選考委員の枠は1名といたしますが、高木基金の理念に共鳴し、選考委員の立場から、市民科学に力を注いで下さる方の積極的な応募を期待しております。どうぞよろしく願いいたします。

募集内容	高木基金の助成選考委員 1名 (現在6名のところに、1名を公募で追加するものです。)
任 期	2年間(2010年3月末まで)
応募資格	高木基金の理念に共鳴する方であれば、学歴、年齢、性別などの資格条件は定めませんが、今回の募集では、いわゆる「学識経験者」、「専門家」ではなく、一般の市民の立場から、様々な問題の現場にかかわった経験などをお持ちの方からの応募を期待しています。
応募方法	次の2点の書類を高木基金事務局に郵送か電子メールでお送り下さい。 1) レポート「私の考える市民科学の役割・課題・可能性」 A4判 2ページ以内で書式は自由。 2) 履歴書(運動や調査研究等の経験を含む) A4判 2ページ以内で書式は自由。写真を貼付してください。
応募〆切	2008年6月30日(消印有効)
選考方法	理事による書類選考および面接の後、8月末までに理事会で決定します。
謝礼など	一年間の選考委員の業務全体について、謝礼50,000円をお支払いします。また、選考委員会、公開プレゼンテーション、成果発表会への参加に要する旅費・宿泊費などは実費を支給します。

具体的な選考委員の役割等については、別紙をご覧くださいとともに、ご不明の点は、事務局にお気軽にお問い合わせ下さい。

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金
〒160-0004 東京都新宿区四谷1-21 戸田ビル4階
TEL・FAX 03-3358-7064 事務局携帯 070-5074-5985 E-mail info@takagifund.org

高木仁三郎市民科学基金 助成選考委員公募に関する参考資料

・現在の選考委員（五十音順）

- 岸本 登志雄 氏（元岩波書店「科学」編集長）
 長谷川 公一 氏（東北大学大学院文学研究科教授）
 平川 秀幸 氏（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター助教授）
 福武 公子 氏（弁護士）
 藤原 寿和 氏（化学物質問題市民研究会代表）
 大沼 淳一 氏（元 愛知県環境調査センター 主任研究員）
 大沼氏は、2007年の一般公募で選ばれた選考委員です。

・現在の理事・監事

- 代表理事 河合 弘之（さくら共同法律事務所所長 弁護士）
 代表理事 飯田 哲也（環境エネルギー政策研究所 所長）
 理事・事務局長 高木 久仁子
 理事 堺 信幸（元岩波書店 編集者）
 理事 嶋津 暉之（水源開発問題全国連絡会 共同代表）
 理事 清水 鳩子（主婦連合会 参与）
 理事 福山 真劫（原水爆禁止日本国民会議 事務局長）
 理事 藤井 石根（明治大学 名誉教授）
 理事 細川 弘明（京都精華大学人文学部環境社会学科 教授）
 理事 中下 祐子（ダイオキシン環境ホルモン対策国民会議事務局長 弁護士）
 監事 蝦名 順子（蝦名会計事務所 税理士）

・助成募集の分類

分類	助 成 内 容	年間予算	募集方法
	国内の個人・グループへの調査研究助成・・・	650万円 ・・・	定期募集 例年 11-12月
	国内の個人への研修奨励	150万円	随時募集
	アジアの個人・グループへの調査研究助成	合 計 200万円	随時募集
	アジアの個人への研修奨励		

2008年度の募集に際しては、助成の枠組みを一部変更する予定ですが基本的には同様のかたちで実施する予定です。

・これまでの助成応募・助成実施件数・金額

分類	助 成 内 容	2007年度 応募	2007年度 助成	設立以来 助成累計
	国内の個人・グループへの 調査研究助成	59件 5,779万円	18件 640万円	84件 4,990万円
	国内の個人への研修奨励	5件 444万円	4件 130万円	15件 810万円
	アジアの個人・グループへの 調査研究助成	1件 97万円	1件 65万円	11件 655万円
	アジアの個人への研修奨励	-	-	2件 115万円
	合 計	65件 6,319万円	23件 950万円	89件 5,620万円

・選考基準（要点）

1. 市民科学にふさわしい研究テーマ、研修先か
2. 研究方法が適切で、しかるべき水準にあるか
3. 研究成果をどう活かすか、目的と方法が明確か
4. 市民科学とは何かを示す研究か / 将来、市民科学の有能な担い手となりうるか
5. 高木基金が助成するにふさわしいか

・選考の流れと選考委員の役割

1. 定期募集（国内の個人・グループへの調査研究助成）の場合

- ・例年 11 月～12 月 10 日頃までに応募を受け付け、12 月下旬までに、事務局が応募書類一式を選考委員に届ける。（昨年の応募件数は約 60 件）
- ・選考委員は 1 月中旬頃までに、各自が、すべての応募案件に対し、A～D の格付と応募金額に対する金額査定を行う。（これを事前評価と称しています）
- ・例年 1 月下旬から 2 月上旬頃に選考委員会（10 時頃～18 時頃）を開催する。
- ・選考委員会では、各選考委員の事前評価に基づき、書類選考通過者を選抜し、それぞれに対する査定額を決める。
- ・選考委員会には、理事・監事も参加し、意見を述べることができるが、選考委員会としての結論は、選考委員のみの合議によって決める。
- ・査定金額の合計は、助成予算 120%以内とする。
- ・2 月下旬頃に公開プレゼンテーションを行った上で、理事会が助成先を決定する。助成先決定のための理事会には、選考委員も参加し、意見を述べることができる。

2. 随時募集（国内の個人への研修奨励およびアジアへの助成）の場合

- ・応募受付は随時行っているため、応募を受け付けた都度、事務局は選考委員に応募書類一式を届ける。
- ・随時募集においては、応募内容に関係の深い選考委員 2 名以上に意見を求めた上で理事会で助成の可否を決める。
- ・国内の個人への研修奨励においては、理事 3 名以上による面接を行った上で理事会として判断する。

以上を整理すると、選考委員としての任務は、主に以下の 5 点となります。

- a. 例年、12 月下旬から 1 月上旬に定期募集分の応募(昨年は約 60 件)について格付け、金額査定を行う。
- b. 1 月下旬から 2 月上旬頃に都内で開催される選考委員会に参加し、選考委員会としての書類選考通過者を確定する。
- c. 2 月下旬頃の公開プレゼンテーション及び理事会（土曜か日曜の終日）に参加し、意見を述べる。
- d. 随時募集分について、必要に応じて意見を述べる。
- e. 成果発表会などに参加し、助成先の調査研究などへのアドバイスを行う。

・その他参考資料

助成募集要項	http://www.takagifund.org/apply/yoko.html
これまでの助成先一覧	http://www.takagifund.org/grantee/index.html
助成研究の成果報告集	http://www.takagifund.org/grantee/report.html